

雲の大実験

三鷹市立南浦小学校
5年 原あさひ

用意したもの



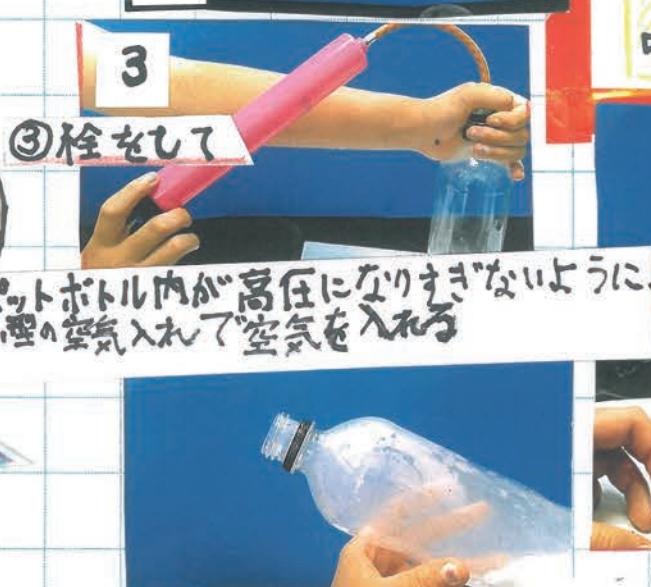
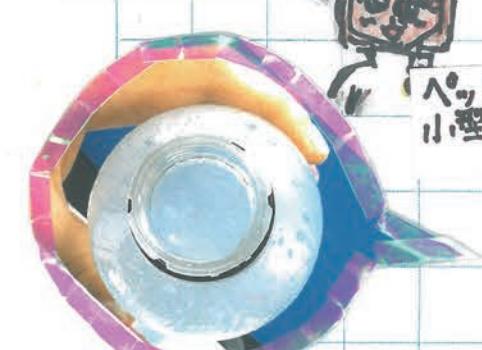
手順

- 
 - ② 空気入れ
→ 針とプラスチック栓をくっつけておいた。
 - ③ 湿・湿度計
 - ④ 線香とライター

① ペットボトルにお湯50mLを入れる。
1分間よくふる。→湿度99%になるまで



真白い雲が
できている



雲を作る条件

- ① できるだけ多くの水蒸気を作る
あたためたら多くの水蒸気が出来るので、
お湯を使う
 - ② ちりが必要
ちりがウツのつぶの核になるため、お線香を使う
 - ③ 温度を下げる
上昇気流でのぼっていくのでどんどん気圧が下がり、温度も下がる
しっかり空気をとじこめ空気入れを使、パンハローにふくらませる。そしていいきに空気を出すということを行う

①②③の条件がそろえればペットボトルの中でも本物に近い雪が作れるはず!

雨を降らせたい

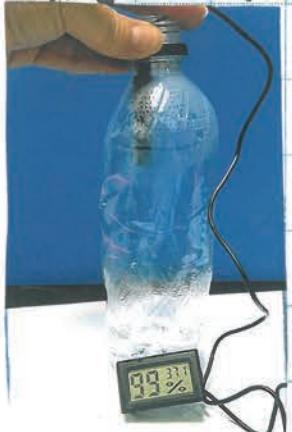
現代科学で行われている「人工降雨」とは？ = シードイング法
自然にできた雲に雨粒の種(シード)を散布し、水や氷のつぶや
を雨粒に成長させる

種となるのは「ヨウ化銀」や「ドライアイス」「塩」など...
どれを使うかは雲の温度によって決まる。

冷たい雲ならヨウ化銀(氷の結晶に似た性質)やドライアイスで
雨の種となる結晶を作り、暖かい雲には塩などの吸湿性の
高い物質を使う。

→では、雪を作ったペットボトルにドライアイスを入れたら?? ②③④

雲を作る前



雲を作った後



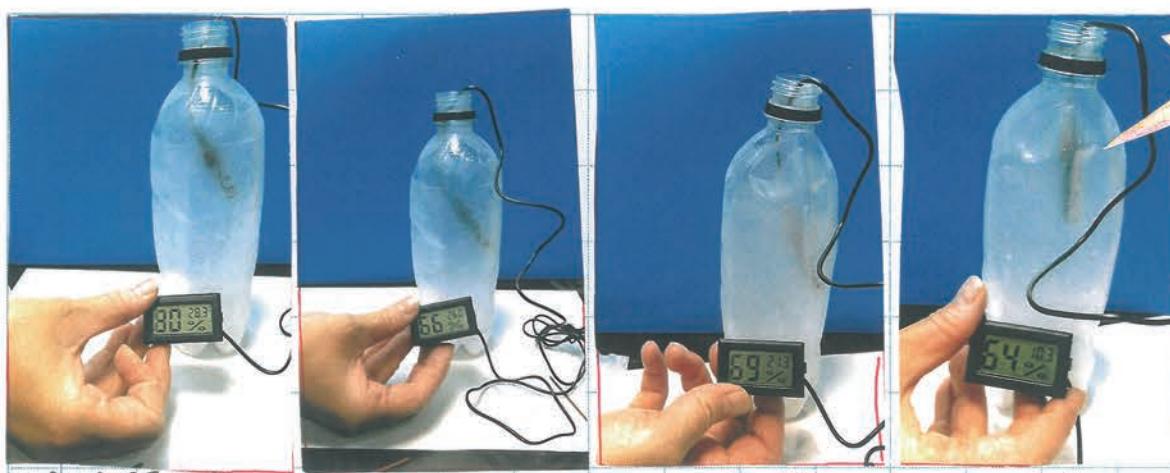
ドライアイス投入



・ペットボトル内が
高圧になら過ぎない
ように入れるとライアイス
の量は少量にする。



見てみると
霜ができ
ていた。
ドライアイス
が下に
たまっていた



栓を開けた直後

1分後

2分後

3分後

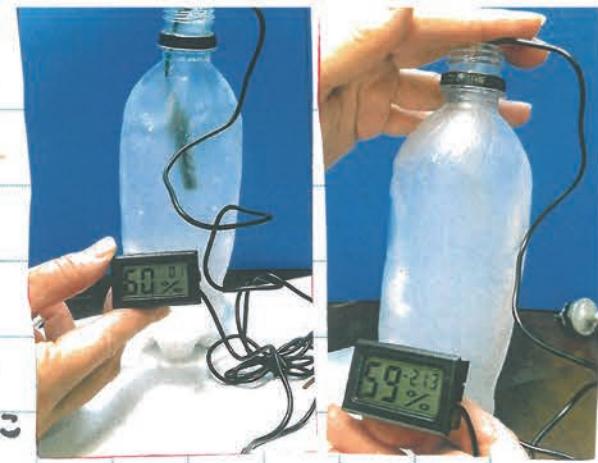
意外と温度が高かった → 湿度が下がった → 温度・湿度が下がっていく



水蒸気が冷かされて、水のつぶにならうのだと思う

「雨ができた!?

その後もどんどん下がって -21.3℃にも達した。



〈雨の生成〉水点下15°C以下の冷たい雲の中で発生した氷晶が周囲の水蒸気を吸収して成長しながら落下さい溶けて雨粒になる

雲を消したい

雲が水蒸気から出来ているというなら、水蒸気や水分を取りのぞけば、雲を消すこともできるのではないか?

水蒸気を吸う → 吸湿ポリマー
100円ショップのじ�く取りから利用

水分を吸う → 吸水ポリマー
100円ショップの携帯トイレから利用

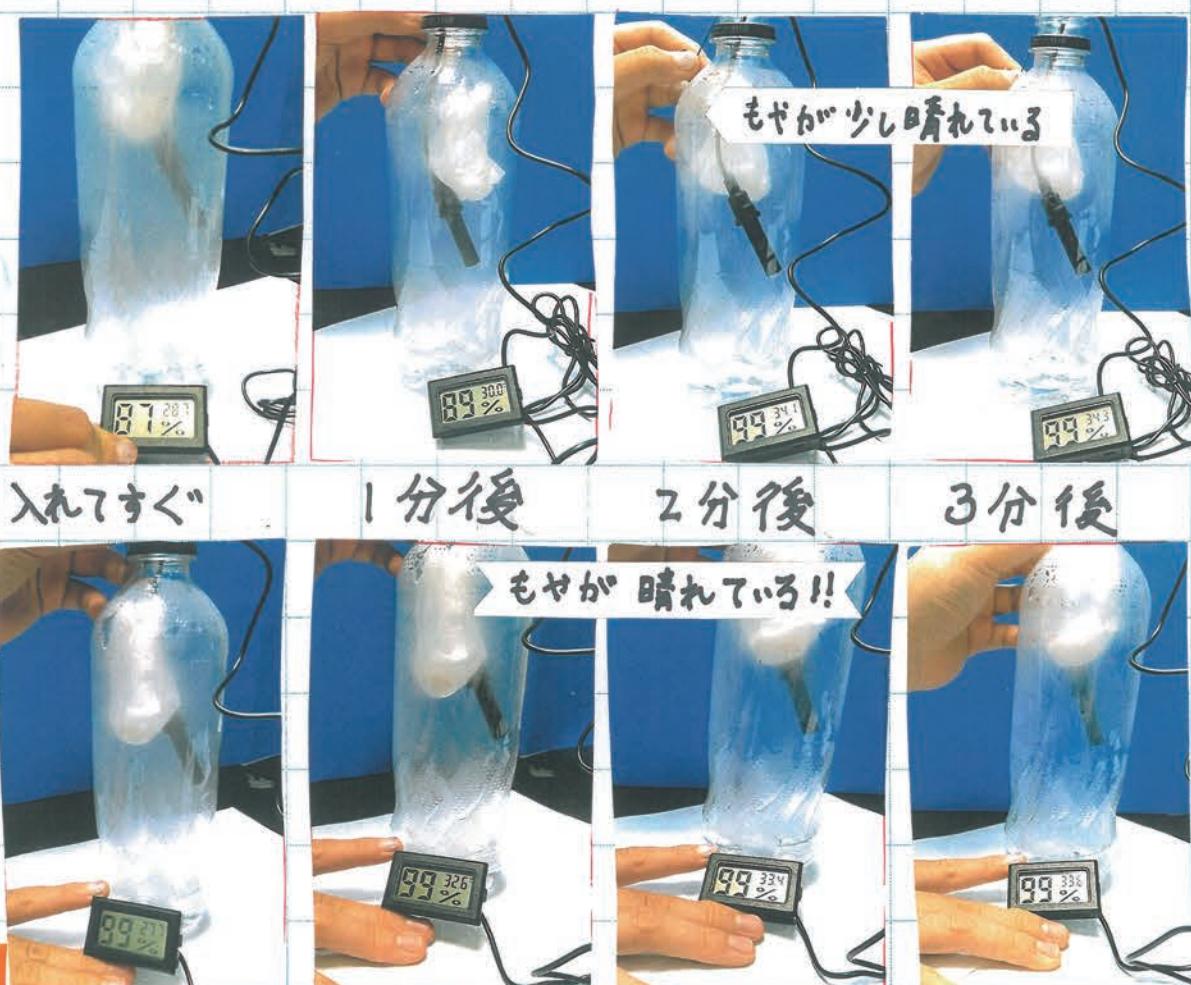


手順

お茶パックにポリマーを入れて、雲を作ったペットボトルに入れる。

→結果

湿度が下がったのは水蒸気が少なくなったからだと思う。では、水蒸気はどこに行ったのか? ペットボトルの内側にできた水滴になったのではないか? ただ、本来は氷の粒こそが雨の元になるので、それを見たかったが、底にたまるドライアイスと区別が付かなかつた。ドライアイスを入れた直後、霜のようなものがそれなのか?



吸湿ポリマー

吸水ポリマー

実験の結果

- どちらも晴れていたけれど吸湿ポリマーの方がよく晴れていた。
- 吸湿ポリマーの方が晴れが持続した。

結果が分かった事

- 雲は、水分と水蒸気でできている。
- どちらのポリマーを入れても、湿度はあまり変わらなかったのは、この実験では最初に入れたお湯を捨てながら、たらからかもしれない。

感想

私は、気象予報士になりたので、この実験に取り組みました。いつか予想だけでなく、天気をコントロールできるようになれば大雨や嵐に苦しむ人々も少なくなると思います。実験は予想通りの結果でしたが、改善できる所もある、たのでもっと研究していきたいです。

参考文献

- 荒木 健太郎 2021 「すごい天気の図鑑」
- RAINY LAB レイニーサイエンスでんじろう先生の「雨の実験教室」→雲を作ってみよう vehi.com/rainy-lab/147
- レタスクラブ「雨を人工的に降らすことはできるのか」 lettuceclub.net/news/avtide/174022
- ウィキペディア「人工降雨」 ja.m.wikipedia.org/wiki/人工降雨